



ワカモノ記者
政治家への突撃インタビュー

まず話を聞いたのは、山本龍前橋市長。「会って、見て聞く。これに尽きると思います」と話します。前橋に暮らす全ての人が、ここに住んでいて良かったと思われる社会・都市をつくること。みんなが暮らしやすいな、幸せだなと思えるまちにするのが役割と語る市長。政治家というと、自分たちにはあまり関係のない人たちだと思っていましたが、市長の熱い気持ちに触れ、思いを改めました。

次に、前橋市議会を代表して、長沼順一議長に話を聞きました。「市民が参加している行事と一緒に参加し、困っていることなど、生の声を聞かせていただいています。そしてそれを自分たちの問題として議会で話し合っています」と語る議長。通学路の安全確保など市民の生活を改善したいとのこと。身近な問題をコツコツと粘り強く解決する姿勢がとても心強く感じられました。



18歳のリアルボイス

初 めての選挙・投票にのぞむ18歳。18歳は何をポイントに決断するのか。ここでは、本紙市民編集委員のワカモノ記者が、18歳の生の声をレポート。さらに、私たちの生活に身近な政治家として、市長と市議会議長に考えを聞いた。

chapter2
18歳の選挙権

日本の政治を決めるルーキー

18歳の社会での立場が大きく変わろうとしている。選挙年齢の引き下げが行われるからだ。7月10日(日)に行われる参議院議員選挙から、18歳以上が投票可能に。本市では、新たに約6,500人が有権者となり、前橋市、そして日本の方向性を決める存在に加わる。

少子高齢社会の日本で、なぜ、今選挙年齢が引き下げられるのだろうか。現在の日本は、20歳代の投票率がとりわけ低く、高齢者層の半分程度。これでは、将来を担う若年層に政策のしわ寄せが及んでも文句は言えない。不平不満を言っている世の中は変わらない。

たくさんの意見がある中、議論を重ね、通った意見が世の中を動かす。それが民主主義。このプロセスを経て、若者から高齢者まで、それぞれが納得した形で政策を受け入れる。選挙はその入り口だ。

前回の参院選 年代別投票率 (平成25年7月実施)	
全体	52.61%
20代	33.37%
30代	43.78%
40代	51.66%
50代	61.77%
60代	67.56%
70代以上	58.54%

出典：総務省ホームページ



女優・手島 実優さん 18歳
青柳町

本当に、本当にギリギリまで悩んで、毎日何をしても進路のことでも頭がいっぱいでした。でも、決めたんです、女優として生きるんだって。周りは就職や、進学。違う選択をすることに不安もありました。でも両親も私を信じてくれたから。

芝居や演劇をやるなら東京の方が、という考えもあると思います。でも、私は私。事務所にも所属せず、フリーランスで自分らしい形を模索することにしました。有名人ではなくて、芝居で相手に影響を与えられる人になりたい。高校の時は、まち映画に出演しましたが、まずは過去の自分を越えることが目標かな。人生の分かれ道ですから。このまちでもやれる、成功をつかみ取ります。

現

在18歳の手島実優さん。勢多農林高在学中から、映画「グリモン」〜DREAM OF FLYING CAR」のヒロインを務めるなど、女優として活躍している。手島さんの決断は、高校卒業後も群馬を拠点に女優活動をしていくこと。

自分を育てた前橋で暮らしながら、夢である女優としてのさらなる成功を目指す。前橋でもやれる。まだまだ、スタートラインだ。

強豪・前橋工業高野球部で甲子園を目指していた福本柊馬さんは卒業後、古市町一丁目のパナソニックESファシリティアエンジニアリングに就職。それから1年、工事の現場監督として、社会でもまれる忙しい毎日過ごしている。

18歳を迎える、自らの手で切り開く新しいスタートライン。目標を抱き、チャレンジする2人にインタビューを行った。

chapter1
18歳のスタートライン

高校生の時に野球をしていて、進学して野球を続けようとも思いません。ただ、進学するとなると、県外の大学かなと思っていました。でも、前橋に残ることにしました。

前橋は住みやすいまち。都会過ぎず、田舎過ぎず。適度に田舎って言う方がいいんですね。市外の会社に就職するという選択肢もありましたが、それはほとんど考えませんでした。やっぱり住み慣れた前橋が好きだし、安心なんです。

現在の前橋には介護施設などが増えてきていて、若い人向けの施設が少ないと肌で感じています。やっぱり若者向けの施設もほしい。そういう声を、私たちの世代が上げていかなければいけないでしょうね。



現場監督・福本 柊馬さん 19歳
富士見町漆窪